

カ 議会だより かみまち

平成29年11月1日発行
宮城県加美町議会
No.59



「親子仲良くゴー！」
(9/16 賀美石幼稚園運動会)

9月定例会

議会中継はこちらから



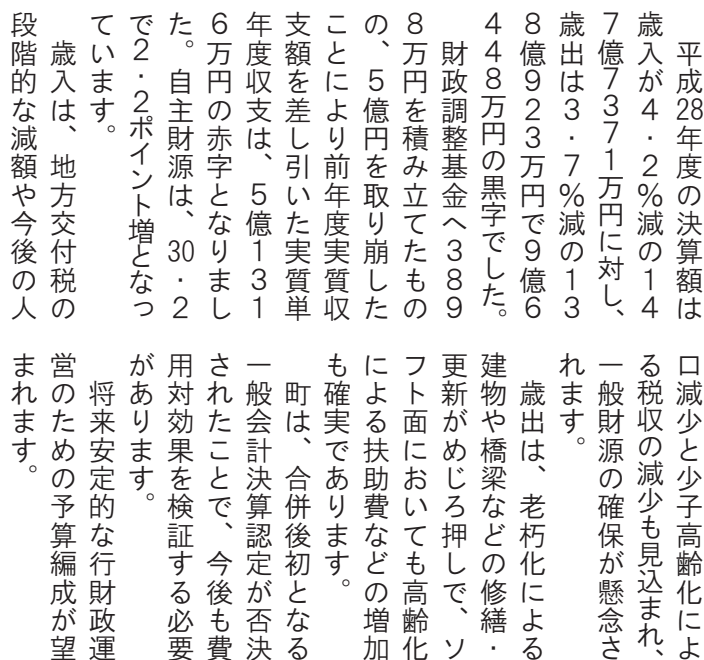
加美町議会映像配信

検索

<http://www.kami-town.stream.jfit.co.jp/>

平成28年度加美町決算の状況	P2
決算認定を否決（賛成・反対討論）	P4
一般質問 町政を問う（4人が質問）	P11
委員会レポート	P16
あれからどうなった（追跡シリーズ）	P18

実績に開きあり



一般会計・特別会計ともに黒字でしたが、現在の町の財政状況や、町が直面する課題を審議しました。

定例会で審議した内容

報告	:	:	:	:	:	:	:	:	:
1件	:	:	:	:	:	:	:	:	:
条例	:	:	:	:	:	:	:	:	:
4件	:	:	:	:	:	:	:	:	:
平成29年度補正予算	.	.	.	.	.	.	.	.	.
11件	.	.	.	.	.	.	.	.	.
平成28年度決算	.	.	.	.	.	.	.	.	.
11件	.	.	.	.	.	.	.	.	.
意見書の提出	.	.	.	.	.	.	.	.	.
2件	.	.	.	.	.	.	.	.	.
要望書	.	.	.	.	.	.	.	.	.
1件	.	.	.	.	.	.	.	.	.

9月定例会は、9月13日から19日までの7日間開催されました。

一般質問では、4人の議員が質問し、町政運営について問い質しました。

議案審議では、中新田公民館整備検討委員会設置条例の制定やカヤックのレンタル事業に関する条例改正案、平

成29年度の各種会計補正予算案が提出されました。平成28年度一般会計歳入歳出決算認定では、起立採決（3頁表参照）で賛成8人と少数のため、否決されました。それ以外の全国森林環境税の創設に関する意見書などを含む議案は原案のとおり可決しました。

28年度 決算

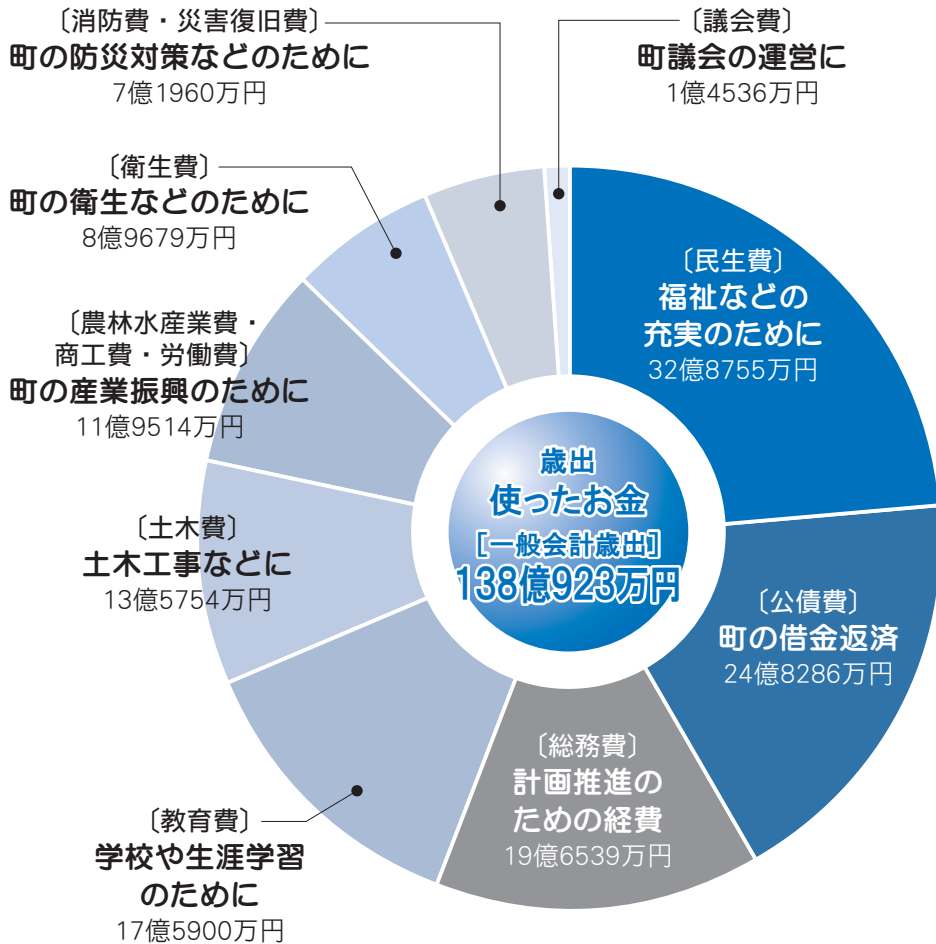
一般会計歳入歳出 当初予算の説明と

町民1人あたりの決算
57万3687円
(H29.3.31の人口24,071人で算出)

		
民生費	公債費	総務費
13万6577円	10万3147円	8万1650円

		
教育費	土木費	産業振興関係
7万3075円	5万6397円	4万9651円

		
衛生費	防災対策関係	議会費
3万7256円	2万9895円	6039円



平成28年度決算審査が、議長を除く17人の議員で構成する決算審査特別委員会（沼田雄哉委員長）に付託され、慎重に審査しました。同委員会では、一般会計歳入歳出決算認定が賛成7人で否決になりました。

その後、本会議において、賛成2人・反対4人（4頁参照）の討論が行われ起立採決の結果、賛成8人と少数のため否決となりました。

町政に厳しく

平成28年度一般会計決算認定の賛否

○：賛成 ×：反対
議長は裁決に加わりません

審議の結果	味上庄一郎	猪股 俊一	早坂 忠幸	三浦 進	高橋 聡輔	伊藤 由子	木村 哲夫	三浦 英典	沼田 雄哉	一條 寛	工藤 清悦	伊藤 淳	伊藤 信行	佐藤 善一	下山 孝雄	米木 正二	三浦 又英	早坂伊佐雄
否決	×	×	×	×	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	—

討論

平成28年度加美町一般会計歳入歳出決算認定において、賛成2人、反対4人がそれぞれの立場で討論をしました。なお、討論された内容(抜粋)は次の通りです。

討論とは…ある表決を要する議題となっている案件が表決に付される際にその前段階においてその案件に対して議員(委員)が賛成又は反対の意見を表明することを指します。



反対 工藤 清悦

こども公園基本計画策定と総合型地域スポーツクラブ設立準備事業が理解しがたい

こども公園基本計画策定事業は、子ども議会からの要望とあるが、児童の自宅と学校をベースとした生活圏の公園整備の要望であった。地域課題を精査しながら取り組むべきであったと考える。
総合型地域スポーツクラブ設立準備事業は、3地区連携しながら町の生涯スポーツの振興を図ろうとするものであったが、設立準備委員会ではこの計画に逆行する結論を出している。



賛成 高橋 聡輔

放射性廃棄物に対し新たな被害者を出さない対策と、持続可能な町を実現する取り組み

新たな被害者を出さないために焼却以外の処分方法を一貫して追求し、空間線量、食品、土壌の定期的検査、公表を行っている。町の重点プロジェクトである里山経済の確立、健全社会の実現、子ども・子育て応援社会の実現を加速させるため、善意と資源とお金が循環する人と自然にやさしいまちづくりに向けた種を撒き、それが少しずつではあるが芽を出し始めたことが感じられる年度であった。



反対 猪股 俊一

国立音楽院と、こども公園基本計画策定事業に疑問

国立音楽院について地域再生戦略交付金事業で改修工事、備品など多く購入しているが、開校時の生徒数は53人の募集に対し19人である。購入した全備品がいつになったら有効活用されるのか疑問である。また、町長から子ども公園をつくりますと言われた地域では落胆している。議会からの意見で基本計画どおりの実施が難しくなり、策定業務は無駄だったと感じる。



賛成 佐藤 善一

大胆な施策が求められており、未来に投資する事業に期待

反対討論で特に、国立音楽院、子ども公園について強く指摘されているが、的を射ていない。いろいろと課題を抱えており、厳しい道のりであるが、前に進む以外に道は開けず、厳しいときこそ将来像を描き、正面から挑む大胆な施策が今、求められている。
さらに効果的な知恵を絞り、未来のために投資する事業として期待するものである。



反対 早坂 忠幸

国立音楽院は計画に対し実績が違いすぎる
加美町アウトドアランド形成事業は議会軽視

旧上多田川小学校跡地に開校した国立音楽院の説明では、平成29年度に生徒数53人、食堂調理員を含む職員総数が10名となっており、地域からの雇用も見込んでいたはずが、生徒数は19人、食堂も開かない状況で、計画に対し実績があまりにも違っている。加美町アウトドアランド形成調査業務を随意契約し、新庁舎用地である矢越が道の駅風アウトドアショップと報告され、議会軽視である。



反対 三浦 進

中新田地区商店街拠点施設等基本設計業務の28年度報告書が、議会に報告されなかった

平成28年度中新田地区商店街拠点施設等基本設計業務に基づく報告書が、議会に報告されなかったことは問題である。主要施策の成果に関する説明書では、専門家・中新田地区商店街活性化検討委員会12名で検討され、事業の効果として商店街の活性化について今後の方向性を検討することができたと記載している。しかし、その詳細内容は全く確認できず、この事案を不問にできない。

特別会計

特定の事業経費を支出するための会計で加美町には9会計あります。

平成28年度の特別会計全体の決算額は歳入が76億4379万円で歳出が73億3431万円、実質収支額は3億938万円の黒字となりました。



後期高齢者医療

後期高齢者医療事業を行うための経理会計

[歳入] 2億4296万円
[歳出] 2億3827万円



国民健康保険事業

国民健康保険事業を行うための経理会計

[歳入] 27億4108万円
[歳出] 25億9664万円



加美郡介護認定審査会

要介護認定の審査・判定を行う認定審査会の運営に係る経理会計

[歳入] 696万円
[歳出] 473万円



介護サービス事業

要支援認定を受けた方の予防給付サービスを提供するための経理会計

[歳入] 1222万円
[歳出] 1075万円



介護保険

介護保険事業を行うための経理会計

[歳入] 28億8390万円
[歳出] 27億8236万円



下水道事業

下水道整備区域における下水道管の整備と維持管理のための経理会計

[歳入] 16億4147万円
[歳出] 16億47万円



町営駐車場事業

町営駐車場の整備、維持管理のための経理会計

[歳入] 368万円
[歳出] 238万円



霊園事業

加美霊園の墓地及び周辺の景観の保全と形成。墓地の整備や管理のための経理会計

[歳入] 828万円
[歳出] 660万円

老朽化した施設や配水管を新しくしたり、水の需要が増加した場合に新しく水を供給する施設を建設するための経理会計



水道事業

資本的収支	[歳入]	489万円
	[歳出]	1億7937万円
収益的収支	[歳入]	5億2395万円
	[歳出]	5億641万円

でも収益が認められている会計。
地方公営企業法により、自治体

公営企業会計



浄化槽事業

下水道整備区域外における浄化槽の整備と維持管理のための経理会計

[歳入] 1億325万円
[歳出] 9211万円

町は予算編成方針を遵守し、既存事業の見直しと経常経費の削減、地方債発行の抑制に努めることが極めて重要であり、今後とも引き続き自主財源の確保や徹底した予算の執行管理に最大限努力されることを望む。

高齡化により扶助費なども増加が見込まれる。子高齡化に伴う税金などの減少や老朽化に伴う建物や橋梁などの維持修繕更新がめじろ押しであり、高齡化により扶助費なども増加が見込まれる。

加美町まち・ひと・しごと総合戦略などが着実に推進され、善意と資源とお金が循環する人と自然に優しいまちづくりに向けた各事業成果が開始めるなど新たな町政推進が図られた年度であった。今後は、人口減少や少



代表監査委員
小山元子

監査意見書(抜粋)

重点事業

Q & A

安全・快適

(防災・防犯・公園・都市計画など)

防災対策事業

4854万円

公園等管理委託料

4629万円

橋梁点検業務委託料

1026万円

こども公園基本計画策定業務委託料

283万円



関連質疑

問

こども公園の整備計画は、アンケート調査の結果に基づいて、町全体の公園整備計画を作成中である。

答

橋梁点検業務委託料の内容は、長さ2メートル以上の橋梁について、国土交通省が定める基準に基づき、5年に1度点検を行うもの。28年度は63橋を実施した。

健やか元気

(子育て・医療・福祉など)

子ども医療費助成事業

1億400万円

住民健診事業

7450万円

健康増進施設管理委託費

6446万円

臨時福祉給付金給付事業

1692万円



関連質疑

問

子ども子育て新制度の効果は、幼保連携型こども園・小規模保育園の開設により、待機児童が一時ゼロになったことが大きい。

答

やくらいウォーターパーク利用促進の施策は、健康増進施設と認識しており、有効利用のための施策を検討し、入込客の増加に向けたPRも行っていく。

自然との共生

(新エネルギー・自然環境など)

荒沢自然館運営費

998万円

バイオマス産業都市構想業務委託料

298万円

住宅用太陽光発電システム導入助成事業

221万円

薪ストーブ等導入助成事業

20万円



関連質疑

問

荒沢湿原と沼の管理状況は、棧橋などを整備し回遊できる状況。沼の管理について、アシなどを除去し、景観の整備に努め、沼の活用も検討したい。

答

バイオマス産業都市構想について、現在の状況は、当初の民設民営の事業計画を見直し、公設民営で検討している。現在、生ごみや液肥の実証実験を行いデータ収集している。

平成28年度決算

協働・自立 (住民参加・行財政運営など)

住民バス運行事業	6591万円
結婚推進事業	377万円
ふるさと納税謝礼	355万円
移住促進事業	46万円

楽しく学べる (学校教育・生涯教育など)

4 芸術館等維持費	4132万円
外国語教育充実事業(A L T)	1863万円
総合型地域スポーツクラブ設立準備事業	192万円
学校等緊急メール配信システム使用料	30万円

魅力・にぎわい (商業・農業・観光など)

各種イベント支援事業	1370万円
アウトドアランド形成調査委託料	1020万円
観光まちづくり協会補助金	570万円
鳥獣害防止総合支援事業	206万円



関連質疑

問

移住定住セミナーおよびフェア参加への効果は。地域おこし協力隊にも参加してもらい加美町の魅力をPRしている。参加者からは好評価を得ており、継続していくことが大事である。

答

結婚推進事業の内容は。宮崎支所内に青年交流センターを設置。結婚を希望する本人や親御さんの相談を受けている。また、かみ恋交流会や後継者対策ふれあい交流などを企画、さまざまな出会いの場を提供している。

関連質疑

問

総合型地域スポーツクラブの今後の方向性は。さまざまな課題について検討し、今後は加美町一本に集約するよう進めていく。

答

学校等緊急メール配信システムの運用は。児童・生徒1人に対し、保護者など2件まで登録できる。加入状況は、小野田・宮崎地区98%、中新田地区90%で連絡事項があれば教育委員会を経由せず、学校から直接配信される。

関連質疑

問

今後のモンベルとの連携は。日本最大のアウトドア専門メーカーとのタイアップは、加美町のPRとして重要である。できるだけ長く連携を続けたい。

答

鳥獣捕獲用の箱わなの貸し出しは。農林課に申請すれば2週間、誰でも借りられる。今後、広報紙などに掲載する。

案議 審議

中新田公民館整備検討委員会設置条例を制定

新築・改修検討へ

中新田公民館を整備するための検討委員会を設置する条例を制定しました。

中新田公民館は、開館後44年が経過し、施設の老朽化が著しく、昨年9月に実施したアンケート調査では、約8割が改善を希望する結果でした。

中新田公民館は、昭和48年の開館から、これまで各種サークルやイベントなどで昼夜を問わず多くの皆さんに親しまれ、昨年度も利用者が2万8000人を超えるなど町民の生涯学習活動に活用されています。

今後、公募により委員を募集するほか、公共的団体の役員や学識経験者など全15人を委嘱し、新築あるいは改修などを検討していくことにしています。

問 具体的にはどういうものを建てるのか。

答 具体的には、決まっていな。検討委員会には、調査・協議の上、最終的に町へ答申してもらう。

公民館とバツハホールがうまく連結でき、楽屋や時には集会所など、多目的に有効活用できるものが望ましい。

問 隣接の物産館にはトイレが無く、公民館のトイレを使用しているのでは。

答 物産館をどうするかは議論は、今の段階では全くないが、物産館も含めての検討になる。



新築・改修が望まれる老朽化した中新田公民館

固定資産税の課税免除

国の法改正に伴い、今後成長が期待される企業が進出する場合や、既存企業でも地域産業を牽引する新たな取り組みをする場合に、固定資産税の課税免除になる条例の適用期限を1年間延長するものです。

固定資産税を減免するので、町の減収になるが、その部分の75%は交付税措置される制度です。



カヤックのレンタル事業

交流人口の拡大と活性化を図るため、地方創生推進交付金事業を活用し、カヤック1人乗10艇、2人乗5艇などをyakurui高原温泉保養センターに配備し、新たにカヤックのレンタル事業を行うものです。

レンタル業務は指定管理者である加美町振興公社が管理運営を行います。

問 カヤックの利用場所は。

答 漆沢ダム・ニツ石ダム・白沼・長沼・鳴瀬川カヌーレーシング場・夏季以外のウォーターパーク（屋外）です。



補正 予算

9月定例会では、ふるさと応援基金積立金、みやぎの農業・農村地域活力支援事業補助金、利用自肅牧草農地還元作業委託料など2億6,240万8,000円を増額し、一般会計の総額を138億1,017万4,000円に補正することを可決しました。

また、下水道事業などの特別会計では設備修繕などについて補正することを可決しました。

Pick up1

すき込み処理の実証試験へ

817万円増額



利用自肅牧草の一時保管状況

問 保管している利用自肅牧草を入れたフレコンバッグが、一部破損しているが、在庫があるので詰めかえ作業を行い対応する。

答 利用自肅牧草は、堆肥化よりもすき込み処理のほうが早く、コストも安く処理できることが分かりました。環境省の加速化交付金を活用し農業公社に委託します。また、実証試験が終わり次第、住民に説明します。

一般会計の補正予算の主な内容

歳入の主な内容	補正額
前年度障害者自立支援介護等給付費負担金返還金	1785万円増
ふるさと応援基金積立金	1064万円増
利用自肅牧草農地還元作業委託料	817万円増
社会福祉協議会補助金	714万円増
みやぎの農業・農村地域活力支援事業補助金	601万円増
林業施設災害復旧事業	284万円増
町民提案型事業補助金	23万円増

Pick up1

Pick up2

Pick up3

Pick up3 協働のまちづくりへ

23万円増額

新規1団体と既2団体の補助金増額

問 どのような団体が応募したのか。

答 宮崎中学校で実施予定の新規事業である。また、加美商工会青年部の事業で、動画作成委託料の5万円増と、古代都市を考える会の事業で発掘したものを保管するケース8万円増の補正である。



Pick up2 農村地域に活力を

601万円増額

農村活性化に効果が認められる事業に補助金を交付

問 対象事業者や補助率などの内容は。

答 やくらい土産センタージェラート券売機や平柳カントリー農産のエノキ包装用機械などの購入補助として、県・町がそれぞれ1/3を補助する。



議会改革

一般質問の質問時間を30分に

9月定例会から試行

7月26日に、2回目の議会改革についての意見交換会を開催し、一般質問の充実「質問時間」などについて話し合いました。

現在、一般質問の議員一人当たりの持ち時間は

町からの答弁も含めて60分となっています。時間内に2、3の大項目の質問時間の配分を考えると質問していますが、答弁が詳しく長引くと、予定していた再質問の時間が無くなるなどの声が続々ありました。

話し合いの結果、答弁の時間を加算せずに議員側の質問時間を30分確保する試みをしてはどうかということになりました。

これまでも「質問力から議会力へ」のテーマで、龍谷大学の土山希美枝教授を招いて研修を重ねてきました。

土山教授は「一般質問は、議員それぞれの気づきを争点として執行機関に問い質し、監査機能や政策提案機能を通じて、まちの政策・制度をよくすることが出来る機会」と定義しています。

今後、予算・決算について、より深く審議するための運営方法を検討し、具体化していくことを確認しました。



これまでは…

質問と答弁を合わせて
60分

これからは

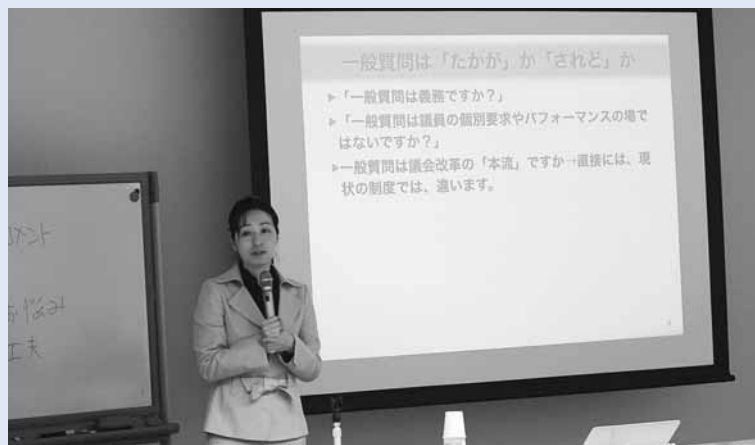
質問時間を確保するため
質問時間30分



充実した質問ができる

議員研修会

「質問力」を高め「議会力」に活かす



龍谷大学 土山希美枝教授

平成28年3月4日開催

町政を問う

4人が登壇

似顔絵を
かいてくれた
おともだち



加美町立

中新田保育所 きりん・ぞう組のおともだち

一般質問目次

通告1 **三浦 進** (みうら すすむ) 12ページ



1. 国立音楽院の事業継続は可能か

通告3 **木村 哲夫** (きむら てつお) 14ページ



1. 総合管理計画の推進は
2. 配信前に行政区長への連絡は
3. 学校給食費への一部補助は

通告2 **一條 寛** (いちじょう ひろし) 13ページ



1. 産業振興支援事業の充実を
2. 「障がい者差別解消法」への対応は
3. 教職員の長時間労働の改善は

通告4 **伊藤 淳** (いとう じゅん) 15ページ



1. 商店街活性化の策は
2. 野生小動物の被害対策は

一般質問とは、議員が町政全般に関して、町長や教育長など執行機関に対し質問することで、定例会（年4回）ごとに行われます。

国立音楽院の事業継続は可能か



三浦 進 議員

町 長 楽器修理・リトミックで収支バランスを期待



楽器製作室（国立音楽院）

問 国立音楽院の入学
者数と現在の在籍者
数は。

町長 開校当初17人、そ
の後2人入学し、現
在19人である。

問 国立音楽院が赤字
続きの場合、事業繼
続ができるか。

町長 年々入学者が増え、
楽器修理・リトミッ
ク教育などの収入も増え
ることを期待する。

問 バイオガス化事業
の今後の方針は。

町長 財政的優位性を考
え、民設民営から公
設民営を検討している。

問 アウトドアランド
形成事業の今後の方
針は。

町長 モンベルの報告書
に基づく、人材育成
や、町民が企画運営する
アウトドアツアーなどを
開催できる体制づくりを
する。

問 中新田商店街活性
化事業の今後の方針
は。

町長 庁内で検討し観光
情報発信、健康の駅
などの機能を含めた提案
をした。

問 27・28年度施政方
針にある「拠点づく
り」を29年度方針に入れ
なかったのはなぜか。

町長 運営主体が明確で
はなかったため、方
針には入れなかった。



にぎわいが求められる商店街

問 中新田地区商店街
活性化検討委員会の
報告書を議会に説明しな
かったのはなぜか。

商工観光課長 報告書はできてい
るが、運営主体が決
まらず議会へ説明する段
階ではなかった。

問 交流人口の拡大に
よる経済効果を生む
のが拠点整備だと思うが。

町長 交流人口の増加は
つで、全てではない。
地域住民が望んでいる
ことを商店街が提供し、
商店街が活性化すること
が大事。



一條 寛 議員



町営小野田葉菜原放牧場

産業振興

産業振興支援事業の充実を

町 長

積極的に取り組む

問 産業振興補助事業に対し町民の関心を高め、意欲を引き出すためにも、全町民に産業支援のメニューを知らせる意義はあると思うが。

町長 広報紙に特集を組むなどさまざまな方法で、積極的に町としての取り組みを示して行きたい。

問 町の総合計画に肉付けをした農業振興計画、商工観光業振興計画が必要と思うが。

農林課長 水田農業ビジョン、酪農肉用牛生産近代化計画を定め進めている。まち・ひと・しごと総合戦略に方向性を載せている。

問 平成26年度宮城県市町村民経済計算によると、加美町の一人当たりの町民所得は県内31位で227万7千円である。産業振興への取り組みは。

町長 工業は立地企業に順調な経営による安定した雇用を働きかける。商業は拠点整備、観光客増に取り組む。農業は農協とともに農家を支え、積極的に6次化にも取り組む。

「障がい者差別解消法」への対応は

障がい福祉

町 長 周 知 ・ 体 制 整 備 を 進 め る

働き方改革

問 教職員の長時間労働の改善は。

教育長 学校業務改善指針を策定し、教職員の意識改革を進める。

問 昨年4月、行政機関や会社、商店などの民間事業者に対し、障がい者差別解消法が施行されたが、町の対応は。

町長 一般町民向けの分かりやすい講演会の開催を予定している。身体障がい者福祉協会の機関紙「なごみ」に法の概要説明の記事を掲載し周知に努めている。

策定し取り組んでいる。取り組みを円滑に行うネットワークを障がい者自立支援協議会の中に組織し体制を整えている。

問 障がい者に配慮した車椅子が対面通行できる新庁舎の建設は。

町長 新庁舎の緊急性はないと考えている。ハードが整えば良いということではなく、意識だと思っている。



機関紙で啓発を

総合管理計画の推進は



木村 哲夫 議員

町 長

個別施設計画を30年度末まで策定



耐震補強後の本庁舎

問 加美町公共施設等総合管理計画に基づく、推進体制の整備と個別施設計画の策定は。

町長 関係所属長を対象に9月11日に説明会を開催した。今後、個別施設計画の素案を作成し、統廃合なども含め、更新などについて横断的に議論し、平成30年度末までに取りまとめる。

問 国土交通省・文部科学省において13・5以下の低強度コンクリートは改修には不適としている。コンクリート圧縮強度が設計基準強度18に

対して、本庁舎および小野田庁舎は基準を満たしていない。とても20年、30年持つとは言いがたいと思うが。

町長 現在の庁舎は20年程度使えると考える。庁舎問題は、今後の環境の変化に応じて考えていく。

災害情報

配信前に行政区長への連絡は

町 長

今後はメールで事前連絡

問 8月8日、大雨警報に伴い、加美町全域に避難準備情報がテレビやエリアメールで配信された。①避難情報などの配信基準は、②配信前に、行政区長への連絡や対処マニュアルが必要だったのでは、③行政区長間のランシーバーの配信方法は。

町長 ①避難情報の配信基準は、加美町地域防災計画に基づいて行っている。②今後、メールにより事前に連絡する。また、Q&Aなどを作成し、区長会議などで説明をしたい。③行政区長間の発信はチャンネルの切り替えでできる。

学校給食

教育長 **問**

学校給食費への一部補助は。

現時点では、考えていない。



情報をメールで配信



伊藤 淳 議員



有効な空き店舗活用を

商工観光

商店街活性化の策は

町長

空き店舗支援策を検討

問 拠点施設設置について町はどう考えるか。

町長 検討委員会の報告書を受け、町としても地域の思いに添えていきたい。地域や議員の意見にも耳を傾けながら議論を深めていきたい。

問 中新田地区の空き店舗解消策は。

町長 空き店舗活用の支援策を検討し、実施の際には支援制度も活用していく必要がある。

問 商店街の意思決定の際、行政のかかわりは。

町長 皆さんの意向もききながら町の考えを示し、お互いに合意形成を図っていく。

鳥獣被害

野生小動物の被害対策は

町長 適正な管理と共に指導していく

問 野生小動物を住宅地でも頻繁に見かけるようになったが実態は。

町長 報告からは被害が増大しているようには見受けられないが報告されていない被害もあると思う。生態などについては取りまとめている資料がない。

問 小動物の合法的駆除、感染症予防など町民への告知と指導は。

町長 一定の条件を満たせば、免許がなくて



住宅地に現れる野生小動物

も駆除捕獲が許可される。また、駆除業者を紹介している。病気感染予防の面から素手では触れない呼びかけをしている。

問 空き家が住みかになっている点については。

町長 環境衛生、防犯、防災の面から、所有者へ文書などで適正管理を促し、家屋などの立ち入り検査業務を実施したいと考える。

中間報告

安全な処理にむけて

放射性汚染廃棄物処理等調査特別委員会

9月定例会で、放射性汚染廃棄物処理等調査特別委員会（佐藤善一委員長）から、次の5点について中間報告がありました。

- ① 400ベクレル以下のほだ木は約99%を占めており、林地還元が妥当である。
- ② 400ベクレル以下の牧草は、実証試験で安全性を検証し、安全確認後のすき込み、安全確認後のすき込み
- ③ 田代放牧場に一時保管しているフレコンバッグに、一部損傷が見られるので早急に詰めかえ作業を行うべきである。
- ④ 農家保管汚染牧草の具体的な処理については、環境省の加速化事業などを活用し、400ベクレル以下の農家保管分を優先にすき込み処理を進めるのが妥当である。
- ⑤ 400から8000ベクレル以下の処理については、実証試験を踏まえ他の自治体での結果や、国の動向を見ながら安全に処理していく方法を検討していくべきであり、農水省交付金の活用も検討すべきである。



8月2日に登米市の土壌還元処理を現地視察

最後に、保管農家、近隣住民への説明会を開催するなど事業への理解を進めるため、周知徹底を図るよう要望しました。

委員会レポート

議会改革へ 先進地に学ぶ

議会運営委員会（平成29年7月11～13日）

参加した委員は、木村哲夫（委員長）・沼田雄哉（副委員長）・高橋聡輔・三浦英典・伊藤淳・米木正二・早坂伊佐雄（議長）

議会改革の先進地

（北海道芽室町）

2年連続でマニフェスト大賞（最優秀成果賞と優秀成果賞）を受賞している。芽室町議会白書を毎年度作成している。

また、議会サポーターに、8人の大学教授を委嘱している。さらに、議会広報を毎月発行したり、ICT（情報通信技術）を推進し、28年度からタブレット端末機（議会のみ）を導入し、ペーパーレス化に取り組んでいる。今後加美町で取り入れたい内容は、基本条例に基づき運営と団体との意見交換会、ICT推進である。

町民の声を聴きやすい場

（北海道浦幌町）

議員、事務局が「チーム議会」として活性化に取り組んでいる。

お茶を飲みながら議員と気軽に意見交換できる「まちなかカフェDE議会」や団体などの集まりに出向く「まちなかおじやまDE議会」などを行っている。

議員基本条例を制定し、議決事項の拡大や広報広聴活動が充実している。

一般質問は、質問制限時間30分（施政方針含む場合は45分）で実施し、議員全員で構成する議員協議会を設置している。

一般質問の質問制限時間と議員協議会の設置は、加美町でも取り入れた。

一般質問の制限時間

（北海道大空町）

議会基本条例を制定し、議決事項の拡大や広報広聴活動が充実している。

一般質問は、質問制限時間30分（施政方針含む場合は45分）で実施し、議員全員で構成する議員協議会を設置している。

一般質問の質問制限時間と議員協議会の設置は、加美町でも取り入れた。

町民の声を聴きやすい場

（北海道浦幌町）

議員、事務局が「チーム議会」として活性化に取り組んでいる。

お茶を飲みながら議員と気軽に意見交換できる「まちなかカフェDE議会」や団体などの集まりに出向く「まちなかおじやまDE議会」などを行っている。

議員基本条例を制定し、議決事項の拡大や広報広聴活動が充実している。

一般質問は、質問制限時間30分（施政方針含む場合は45分）で実施し、議員全員で構成する議員協議会を設置している。

一般質問の質問制限時間と議員協議会の設置は、加美町でも取り入れた。

町民の声を聴きやすい場

（北海道浦幌町）

議員、事務局が「チーム議会」として活性化に取り組んでいる。

お茶を飲みながら議員と気軽に意見交換できる「まちなかカフェDE議会」や団体などの集まりに出向く「まちなかおじやまDE議会」などを行っている。



町民と協働のまちづくりへ

総務建設常任委員会（平成29年8月23～25日）

参加した委員は、沼田雄哉（委員長）・早坂忠幸（副委員長）・伊藤由子・木村哲夫・工藤清悦・三浦又英・早坂伊佐雄（議長）

産・学・官が協働

（三重県多気町）

「まごの店」は、平成14年食材を販売する「おばあちゃん店」の食材を利用した相可高校食物調理科生徒が運営する調理実習施設としてオープンした。営業日は、土・日・祝日・長期休業中のみ。仕入れから接客、販売、経理までを高校生だけで行う施設である。

1日250食（1300円）を提供し、地産地消の推進に大きく貢献している。

加美町においても地産地消の意識は高い。課題は、若者への働きかけにあると気づかされた。

市民参画と協働

（静岡県焼津市）

職員の意欲及び能力を引き出すため、市民協働推進員（主任・主事以上から30人）を設置し、毎年セルフチェックを実施している。協働のまちづくりの意識を図るため、まず、「腕より始めよ」の精神に学びたい。加美

町においても市民協働推進員の組織化は可能と思われる。



若者総合政策

（愛知県新城市）

平成27年度から始まった若者議会は、市長の諮問に応じ、若者政策について話し合い、政策を立案し、市長に提案している。全体事業費は、1千万円以内であるが、若者の思いや意見を実際に実行し形となっていて、「おしゃべりチケット」や「バブルサッカー」は高齢者に好評である。加美町でも若者議会設置の可能性はおおいにあると考えられる。

委員会レポート

伝わる広報づくりへ

議会広報常任委員会（平成29年9月27～29日）

参加した委員は、伊藤由子（委員長）・味上庄一郎（副委員長）・早坂忠幸・三浦進・高橋聡輔・一條寛・早坂伊佐雄（議長）

小委員会企画検討

（千葉県多古町）

平成27年度議会広報全国コンクール特別奨励賞（編集・デザイン部門）を受賞している。

校正は、2～3人の小委員会方式で行い。広報紙は、毎回1ヶ月以内に発行している。

加美町でも審議結果の公表、公開の企画を参考にしたい。



伝える広報から伝わる広報へ

（町村議会広報研修会）

議案審議を編集する場合、取り上げる案件を選ぶこと、議決に至るプロセスが見えること、見出しを読めばポイントがつかめる、議案の内容、議員の意思表明がわかることが重要である。

読者層の拡大、掘り起こしのため子育て世代・働く世代、中・高校生に届く媒体（スマホの活用）などが、今後当町でも検討される必要がある。



読みやすく見せる広報へ

（埼玉県小川町）

平成28年度議会広報全国コンクール奨励賞（編集・デザイン部門）を受賞している。

編集方針として「読みやすい文字、やさしい表現、見やすい誌面、親しみあるデザイン、色への配慮」などの約束を掲げている。

加美町でも、若い読者層を拡大するための企画・工夫を参考にしたい。



あれからどうなった

vol.30

平成28年9月定例会の一般質問内容が、その後どう取り組まれたかをお知らせします。

議会広報No.55から

■学校図書の状況を改善すべき



問 児童一人あたりの図書購入費も、全国平均を大きく下回っている。将来を担う子どもたちのために、資格者の補充も含めた年次計画を見直しては。

答 町立図書館と連携を図り、子どもたちの学習環境を整備し、実態調査を踏まえて増員も検討している。

その後



■学校図書館環境整備3か年計画を策定

学校図書館の活性化を目指して、今年4月に計画を策定しました。町の非常勤職員に図書の整理をしてもらい、更にコンピューターを整備し、図書情報のデータベース化を順次行います。図書購入予算も増額しており、3年間で15%程度の蔵書の更新を計画しています。

また、町立図書館に学校図書館担当職員を配置し、各学校を巡回させ読書活動や学習活動を支援する予定です。

議会広報No.55から

■クマ・イノシシの被害状況は



問 クマやイノシシが頻繁に里山に出没し、農作物に甚大な被害を与えているが具体的な対策は。

答 有害鳥獣駆除隊が絶えずパトロールし、出没する時間・生態など、駆除に必要なデータを収集しているが、今後も駆除力向上に向け検討している。

その後



■鳥獣被害対策実施隊が誕生

平成29年4月「加美町鳥獣被害対策実施隊」が発足し、33名の隊員に辞令が交付されました。

主な活動内容は、有害鳥獣の捕獲、駆除および追払い、農作物の被害状況や出没などの調査、駆除技術の向上および普及指導です。関係機関とも協力し、実施隊活動を推進していきます。

トピックス

要望書を町長に提出

農作物被害対策を求む声を町へ

9月定例会で産業経済常任委員会（三浦英典委員長）から提案された「異常気象に伴う農作物被害対策に関する要望書」を可決し、9月22日に早坂伊佐雄議長と三浦又英副議長が町長へ要望書を提出しました。

定例会前に同委員会は、加美よつば農業協同組合や町職員と共に被害状況を調査し、日照不足と長雨などの異常気象が農作物に影響を与えたことを確認し町へ対策を求めました。



防災・減災への対応

議会災害対策委員会設置訓練



8月27日、町の総合防災訓練が実施され、議会においても「加美町議会災害対策委員会」を設置する訓練を行いました。

町が設置する「災害対策本部」と連携するための災害対策委員会で、町内に大きな被害が発生した場合、災害情報の収集や町の災害対策に対する要請への対応を確認しました。

●議長交際費内訳

（7月～9月）

情報公開

月	件数	金額	内訳
7月	3件	12,000円	祝儀・会費
8月	10件	31,000円	祝儀・会費
9月	1件	5,000円	協賛金
合計	14件	48,000円	

“傍聴に来てけらいん”

議会定例会の日程は、開会前に各家庭にチラシを配布してお知らせします。ぜひ、傍聴にお越しください。

議会傍聴された方

件名	会期	傍聴者数	
		男性	女性
9月定例会	9月13日～19日	41	22
10月臨時会	10月6日	1	0

次回の定例会は
12月上旬頃
の開会予定です

加美町 未来・夢 子ども議会



「加美町 未来・夢 子ども議会」を議会主催で開催します。今回も、町内の各小学生の代表者が子ども議員として、町長や教育長に一般質問を行う予定です。

日時 11月21日(火) 午後2時から
場所 小野田支所3階 議場



表紙写真の紹介



賀美石幼稚園運動会
(9月16日)

賀美石幼稚園の運動会が開催され、大玉ころがしやパン食い競走などの競技が行われました。親子競技の障害物競走では園児と保護者が仲良く輪の中に入りスタート。協力しながら楽しそうにゴールを目指していました。



～おもてなしの心で～

宮崎・東町（78戸）

渡邊 俊次 区長



東町は県道の両サイドに細長く広がった地域で、旧宮崎町の玄関口にあたる所に位置し78世帯の行政区であります。美しい花で迎えようと花壇の手入れを区民で行っています。

年に6回開催するミニデイサービスを中心に活動を展開しています。保健福祉課、危機管理室、加美警察署、社会福祉協議会などの協力で、健康、防災、防犯に関することなどを区民全員で学んでいます。春には花見、12月には子ども会と一緒にクリスマス兼忘年会も開催しています。

元気な高齢者が多いですが、幼児も比較的多くにぎやかな区で、スポーツが盛んになり、大会では上位入賞を果たす機会も多くなってきました。

また、お盆に帰郷する人たちを出迎えるため、今年7月に安全安心パトロール隊を中心に県道の清掃作業を実施しました。



われらが仲間

せせらぎ俳句会

「遊ぶ子の 尽きし集落 夏の川」
松本徹魯（哲郎）



せせらぎ俳句会として平成二年、医師の赤間良和氏を中心として結成以来二十七年になりました。月一回の句会に五句を持ち一憂しながら楽しく句会を開いています。季節感ある動植物や日常の動作の感動など、沢山の身の回りの事象に目を向け、感動を十七文字に表現することが喜びです。言葉の写生とも言われますがとにかく自分の感覚の文字化に苦心しているところです。歳時記をめくり、俳句手帳を片手に自分を吟行に駆り立てるその緊張感が健康維持のもとで、現在、松本哲郎氏（九十余歳）を会長に、11人により先般、第八集の句集を出し次期句集に意欲を燃やす俳句会です。皆さんも俳句に触れてみませんか。

開催日 毎月第3月曜日
場 所 小野田コミュニティセンター
連絡先 伊藤 真夫 ☎67-2428

編集後記

9月定例会は、平成28年度加美町一般・特別会計決算が決算審査特別委員会によって、審議が慎重に行なわれました。その詳細については、本紙2頁をご参照ください。

これまで一般質問の時間は、質問と答弁合わせて1人1時間以内としていましたが、本定例会から議会改革の一環として、質問時間は30分以内で試行されました。監視・提案機能などに資することにより、さらに充実した質疑が行なわれるものと思います。

（三浦 進）

議会広報常任委員会

編集委員

委員長	伊藤 由子
副委員長	味上庄一郎
委員	早坂 忠幸
委員	三浦 進
委員	高橋 聡輔
委員	一條 寛